



髪は浄土宗の僧侶がボランティアで、患者の注文は「タコ社長」カット

ンティア30人。訪問診療・看護から厨房委託・在宅酸素まで外部資源として活用・連携している医療機関、事業所、NPO、団体の数は合わせて33。

ホームレスのためのホスピス

とえ家族はいても縁が途切れているだけに、ここのボランティアは家族同様。「ファミリーボランティア」と呼んでいる。

東京都認可の第一種社会福祉事業としてオープンしたのは2002

ファミリーの手に負えない医療、看護、介護と厨房やソーシャルワーカーなど専門サービスは、病院、診療所、在宅ホスピス専門医、訪問看護ステーション、介護会社などと契約。施設長と看護主任がソーシャルワーカーと相談しながら一人ひとりの患者の生活と病状に合わせてケアプランを練り、医師・訪問看護師・ヘルパーらプロが、定期的または必要に応じて各種サービスを提供してくれるよう手配する。これは欧米のホスピスに似たりやうだ。

年10月。開設・運営は医療法人でも社会福祉法人でもNPO法人でもない、有限責任中間法人の山谷・すみだリバーサイド支援機構だ。小児癌など難治性疾患児童と家族の宿

患者の定員は21人で、すべて個室だから周囲に気兼ねせず、最期までその人らしいケアができる。スタッフは有給11人とファミリーボラ



医療は在宅医療の往診医が来てくれる

今日の見舞客(右)は元演歌師。昔「釜ヶ崎エレジー」をレコードに吹き込んだ



家族はどこに? チャペルに安置された元患者の遺骨



泊施設を設置・運営するNPO法人ファミリーハウス事務局長だった山本雅基さんと、妻で看護師の美恵さんが「ホームレスのためのホスピス」と立ち上げた。

棟だと生活サービスが十分にできないうえ、癌・エイズ以外の末期患者を受け入れることができない。医療施設でない特別養護老人ホームやグループホームでは外部の医療サービスを制限される。ところが、ここ

はじめ借家で開始しようと「数百軒の不動産屋」にあたるたが、ことごとく門前払い。仕方なく土地を買って建物作りから着手した。「無謀の家」と山本夫妻は笑う。事業費1億6500万円は借金と賛同者の寄付。運営費は患者の生活保護費とキリスト教会などからの寄付金で賄っている。目指すは「マザー・テレサの『死を迎える人の家』日本版(山本夫妻)。

「在宅」だから医療保険と介護保険を利用して有償・無償の社会資源をフルに取り入れ、医療・福祉・生活のサービスを患者一人ひとりに合わせて提供できる。解決すべき課題はあるが、コミュニティケアの先駆的な取り組みである。

この特徴は①スタッフが共有する宗教・宗派を超えた人間愛の連帯感、②老衰死を含めてあらゆる末期患者の看取りをする、③施設のように見える「在宅」ケアの場である。医療制度のホスピス(緩和ケア病

尾崎 雄 ジャーナリスト
1942年生まれ。65年早稲田大学政経学部卒。日本経済新聞社で婦人家庭部次長、『日経Woman』編集長、編集委員等を歴任。元仙台白百合女子大学教授。(社)成年後見センター・リーガルサポート理事。老・病・死を考える会世話人。著書に『人間らしく死にたい』『介護保険に賭ける男たち』など。

撮影：浅田悠樹